

# 支援だより

平成 27 年度第 7 号  
平成 27 年 11 月 27 日  
神奈川県立中原養護学校  
支援連携グループ



日なたの暖かさがほっとする気候になってまいりましたが、風邪など引いていないでしょうか。秋祭では児童・生徒たちの学習の成果をいろいろな場所で見ることができ、充実した二日間を過ごすことができました。

さて、今月の支援だよりは、支援連携グループリーダー、進路支援係、校内外支援OT（作業療法士）からのお知らせです。ぜひご覧ください！

## 支援連携グループリーダーより

「フルーツ教室で」 山田 良寛

フルーツ教室に通っています。先生から提示される曲には、速い曲、長い曲があります。速い曲を練習する時、私は、初めから譜面に示された速さで演奏しようとしがちで、指使いが十分追いつかない状態で、できていないところがはっきりしないまま曲の最後まで行ってしまいます。でも、それではなかなか上達しないのです。そこで先生のアドバイス。速い曲は「練習のはじめのうちはゆっくり演奏して、指使いが確実にになったら徐々に速度を上げて」。長い曲は「曲をいくつかに分けて、一か所仕上がったら次へ」。

アドバイスされた時はその意味がよくわかりませんでした。後日振り返ってみると、先生のアドバイスは、生徒（私）の実態を正しく把握し（何ができていて、何が難しいのか）、習得させるための的確な手立て（目標を段階的に設定する）を考えての言葉と気付きました。

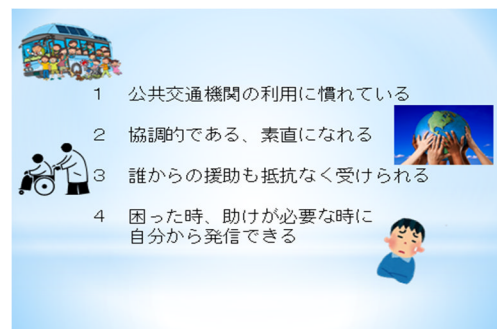
学校での学習支援も同様で、個別教育計画における的確な実態把握や支援の手立てが大切だと、自分の体験から改めて気付かされました。

## 進路支援係より

『進路』について考える(その3)

今回は、具体的なお話を交えながら「現時点でご本人は何ができて、何ができないのか？将来の地域社会での生活を見据え、様々な経験をしておけると良いでしょう」ということを述べさせていただきました。

今回は、企業や福祉施設の方々からご意見いただく「学齢期に身に付けて欲しいこと」についてお話したいと思います。よく話題にあがるのは、右のような事柄です。これを項目ごとに見ていきたいと思っています。



## 1 公共交通機関の利用に慣れている

企業や就労訓練系の福祉事業所へ進む場合、自宅から事業所まで送迎してくれることはありませんので、自分の力で通うことになります。「電車やバスが使えないので、自宅近くの活動先を探す」という考え方もありますが、なかなか条件に見合う事業所はみつからないでしょう。

今すぐには公共交通機関が使えなくても、日常的に電車やバスに乗り慣れておくことで抵抗が無くなるという側面もあります。「いずれ」を思い描きながら、買い物や旅行の際に公共交通機関を利用して下されい。

## 2 協調的である、素直になれる

企業でも福祉事業所でも、集団活動の輪に入ることに違いはありません。そして、多くの事業所にはすでに通っている先輩や同僚が居ます。誤解のないよう申し上げると「なんでも言われた通りに」「嫌なことがあっても我慢して」ということではありません。あまりに大きく活動の輪から外れてしまったり、自分と直接的な接点がないにも関わらず他者への好き嫌いが激しい（「私を見ているからイヤ」「あの人の声が気に障る」等）といったようであると、その事業所に馴染むのは難しくなってしまう、ということです。ご本人が日々楽しく過ごしていくためにも、なるべく多くの人と協調できることが望ましいと思います。

## 3 誰からの援助も抵抗なく受けられる

支援者も労働者です。人事異動もあれば勤務ローテーションもあります。「特定の、慣れた人からでないと援助が受けられない」という状況は避けたいものです。特定の人からの支援に限定してしまうと、結果的にご本人の活動の幅が狭められてしまいます。誰からの支援も受けられるということは、将来、ご本人が地域社会に出た時にも必ずプラスに作用します。



## 4 困った時、助けが必要な時に自分から発信できる

言語での発信に限りません。手を挙げる、カードを提示する、機械音を出す、などでも構いません。いずれにせよ、助けが必要な時に発信できる力をつけましょう。



企業では、「分からないまま、理解していないままに作業が続けられると不良品が発生してしまう」「分かりました、分かりませんと言ってもらわないと、指導者も次の指示が出せない」と言っています。その結果、同じことを再度注意されたり、「分からない時は聞くこと！」と論点を変えた別の注意を受けたりしてしまいます。福祉事業所の場合では、福祉といえどもマンツーマンで支援できる事業所はありません。ですから、突発的なことや今対処して欲しいことが起こった際に意思表示することで、支援者からの素早い対応が望めます。

どちらの場合でも、ご本人が意思表示できれば、本人自身が短時間でストレスから解放されます。

# 校内外支援OTより

「アルテク」をご存知ですか？

作業療法士 笠原明子

10月に東京ビックサイトで行われた国際福祉機器展では、福祉機器開発最前線として、介護ロボットや同伴者に自動併走するロボット車椅子など多くのハイテク機器が紹介・展示されていました。その中で、私が目を引いたのは、身近な機器の福祉的利用方法講座で、携帯電話やスマートフォン、パソコンなど身近にあるテクノロジー（アルテク）を活用しようというものでした。今のスマートフォンやパソコンはタッチや音声で簡単に操作することもできますし、例えばメモを取る代わりにボイスレコーダーを使ったり、黒板を写す代わりにデジカメで記録する、アルバムをコミュニケーションブックとして使うなど、身近なものを使うことで、自分でできることが増えたり、コミュニケーションが広がります。

今回は、さまざまな障害を持った方だけでなく、パソコンを使いにくいと感じる世代の方にも優しい「Windowsのアクセシビリティ機能」について紹介したいと思います。

☆コンピューターのコントロールパネルから、コンピューターの簡単操作センターを選択すると下の画面が出てきます。そこから、さまざまな設定が可能です。



## ○パソコンの画面を見やすくします

画面の解像度を変更したり、文字やアイコンの大きさを変更したり、詳細な設定を行うことができます。

## ○マウスやキーボードを使わずに

スクリーン キーボードや音声認識の設定を行います。

## ○マウスを設定します

マウスポインターの大きさを変えるなど、マウスの詳細な設定を行います。

## ○キーボードを使いやすくします

2 つ以上のキーを同時に押すことが難しい場合に有効な「固定キー機能」や速いキー入力や繰り返しの入力を無視することで誤操作を減らせる「フィルタキー機能」などを設定することができます。

\*「固定キー機能」は shift キーを 5 回押すと、簡単に設定することもできます。

このような機能は、Windows だけでなく ios などにも標準で搭載されているようです。他にもいろいろな設定がありますので、ぜひ検索してみてください。

**支援だよりへのご感想、ご質問は**

**e-mail : [nakahara01-sh@pen-kanagawa.ed.jp](mailto:nakahara01-sh@pen-kanagawa.ed.jp) まで!**

**中原養護学校ホームページ**

**[http:// www.nakahara-sh.pen-kanagawa.ed.jp/](http://www.nakahara-sh.pen-kanagawa.ed.jp/)**